

令和3年度 大阪府立交野支援学校四條畷校 第3回学校運営協議会 報告

1. 日時・場所	令和4年2月28日(月)午前10時00分から12時00分・交野支援学校四條畷校会議室	
2. 出席者	【学校協議会委員】	
	高塚 良則	元大阪府立学校長
	坪井 安嗣	四條畷市砂自治会長
	杉本 匡子	(社)るうてるホーム通所事業部長 (欠席)
	加藤 美朗	関西福祉科学大学准教授
	北口 信二	北河内東障害者就業・生活支援センター長
	小川 弘子	大阪府立交野支援学校四條畷校 PTA 会長
	【事務局】	
	武田 幸造	准校長
	野村 佳津	教頭
	香西 朝夫	課長補佐 (欠席)
	溝部 晃輔	首席・中学部主事
	村上 智則	首席・高等部主事
	傍聴希望者募らず (新型コロナウイルス感染症予防のため)	
3. 次第	<p>(1) 准校長あいさつ</p> <p>(2) 学校教育自己診断アンケート結果及び分析について</p> <p>(3) 令和3年度学校経営計画および学校評価 自己評価(案)について</p> <p>(4) 令和4年度学校経営計画(案)について</p> <p>(5) その他</p>	
4. 報告	<p>学校教育自己診断アンケート結果及び分析について</p> <p>生徒用アンケートについては、「わからない」「未記入」の回答を減らすために文言を一部変更した。「未記入」の割合は減った一方、「わからない」が増加する結果となった。概ね肯定的評価を得ているが、課題点としては「主権者教育」で、生徒会選挙との繋がりを考える必要がある。また、「キャリア教育」についてもさまざまな取り組みを行っているが、現状生徒の実感に繋がる場所までは達していないと思われる。</p> <p>保護者用アンケートについても、昨年度に引き続き概ね肯定的評価をいただいているが、19項目でわずかにポイントが下落。コロナ禍で来校機会が減少した影響もあるかもしれないが、その中でもうまく学校の取り組みを発信していけるよう工夫していきたい。</p> <p>教職員用アンケートからの課題点として、支援教育の専門性の向上、特色ある学校づくり等の面で不十分な面が見られたが、そのためには教員の多忙感の解消、業務の平準化、会議の精選などの働き方改革が必要で、今後も取り組みを進めていく。</p>	
	<p>令和3年度学校経営計画および学校評価 自己評価(案)について</p> <p>中期目標の5項目について、准校長より自己評価を説明。</p> <p>キャリア教育の充実については今年度本校独自のキャリアプランニングマトリクスを作成した。次年度は授業力向上を含めて活用を検討。また、きょうだい学級の取り組みや地域での活動など、活動も充実してきている。</p>	

安心安全な学校づくりでは、ヒヤリハットの報告がより定着した。また、地域の教員向けに人権研修を公開した。防犯訓練についても、今年度は生徒を含む訓練ができた。個人情報の誤配付の防止に向けても高い意識で取り組んでいるので、今後も続けていきたい。

授業力の向上への取り組みについては、授業力向上チームの取り組みが管理職を含む一部の教員の取り組みに終わってしまった面があるので、次年度は活動を広げていくとともに、ICT を活用した授業づくりについても、校内で好事例を蓄積し、発信できれば。

地域連携・センター的機能については、校区内小中学校への訪問件数は増加した。また本校を会場としての教材交流会も行った。

学校組織づくりでは、引き続き「コロナ禍を理由にあきらめない」をモットーに授業・行事等を進めてきた。新たに Zoom 等も活用した。R4 も働き方改革の取り組みを進める。

令和4年度学校経営計画(案)について

「めざす学校像」「中期的目標」について審議

- 1 キャリア教育の推進としては、これまで以上に中高 6 年間を意識した、一貫したキャリア教育を進めるとともに、その取り組みの柱として「清掃」を位置づける。
- 2 安心安全な学校づくりでは、引き続き感染症対策を徹底と、ICT を活用した学習保障の取り組みを進めていく。また保護者とも連携した防災訓練も検討したい。
- 3 専門性の向上については、「授業力向上チーム」の取り組みの強化。そのうえで、地域の教員向けに、授業の様子等をホームページで配信していきたいと考えている。
- 4 センター的機能の発揮についての課題は、外部への発信。これまでの取り組みに加えて、ホームページのコンテンツの充実とともに、実際に来校いただいて、本校の教育に触れる機会を増やしていく。
- 5 働き方改革についても引き続き取り組む。できれば多くの先生方からアイデアを出してもらい、一人ひとりが意欲的に取り組めるようにしたい。

「R4 学校経営計画(案)」に対し、委員からご意見をいただいた後、全会一致で承認。

具体的な取り組み内容については、令和4年度第1回運営協議会で説明。

その他

ICT を積極的に活用した授業について、映像で紹介。

委員よりの意見

高塚会長：

R3 学校評価については、不十分(△)とされている項目もあるが、全体として見るとよくやっていると思う。ただ年度変わりに際して、管理職が異動すると取り組みがストップしてしまうことが多々ある。それは教職員の参加意識の低さのあらわれであり、普段より教員の意見を吸い上げ、参加間を高めることが必要。

自己診断アンケートの生徒用については、例えば「授業は楽しいですか」「学校は楽しいですか」といった基本的な質問に否定的評価をしている10%～20%をどう評価するかも大切であり、職員全体で考える必要がある。

加藤委員：

自己診断アンケートについては、わかりやすく分析されており、おおむね高評価。このコロナ禍でも先生方が頑張っているのがうかがえる。生徒用については「わからない」が多い傾向にあるとのことだったが、同じ「わからない」でもそのレベル(程度)も違うし、「わからない」を選べることも力かと思う。そのあたりも分析・活用できれば良い。

学校でもICT化が進む中で、いい授業のアーカイブ化も進めてほしい。

北口委員：

現在府下で2校(うち1校が四條畷校)が指定を受けている「キャリア体制支援事業」については、教育庁の方からも非常に成果が上がっているという風に聞いている。3か年の来年は最後の1年となるので、しっかりと取り組んでほしい。

ICTの取り組みについては、この1年間で大きな進歩を感じる。いい授業や教材についてはうまくアーカイブ化して欲しい。

坪井委員：

iPadなどのタブレット端末に関して、子どもの世代のほうが自分たちより優れていると感じることも多い。半面、「ノートに書く」といったアナログな学習は、後で思考の過程を確認するには便利な面がある。デジタル一辺倒にならず、これからうまく長所をミックスしながら学習活動に臨んでほしい。

小川委員：

2月のPTAの進路講演会では、はじめてZoomも活用して学校に来ることが難しい方向けに配信する取り組みを行い有意義だった。子どもの休業中にも学校からZoomでの配信もあったが、そこでは課題点も浮き彫りになった。

今後も今のような情勢が続くことも予想されるので、検討を重ね、オンラインでの授業や取り組みが「使える」ものにできるように。